

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 (1)定時株主総会・期末配当 3月31日
(2)中間配当を実施する場合 9月30日
(3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
および 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問合せ先 電話 0120-232-711(通話料無料)

単元株式数 100株

公告方法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html>
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

(ご注意)

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行株式会社が口座管理機関となっておりますので、以下記載の特別口座の口座管理機関に、お問合せください。

特別口座の口座管理機関 日本証券代行株式会社
連絡先 〒168-8620
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843(通話料無料)

ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

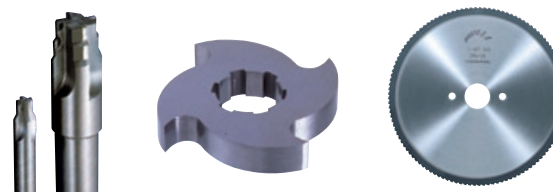
当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧いただけます。

兼房株式会社



PROJECT-
With the Earth
この冊子の印刷・製本に係るCO₂は
PROJECT- With the Earth を
通じてオフセット(相殺)しています。

KANEFUSA



株主・投資家の皆様へ | 第65期

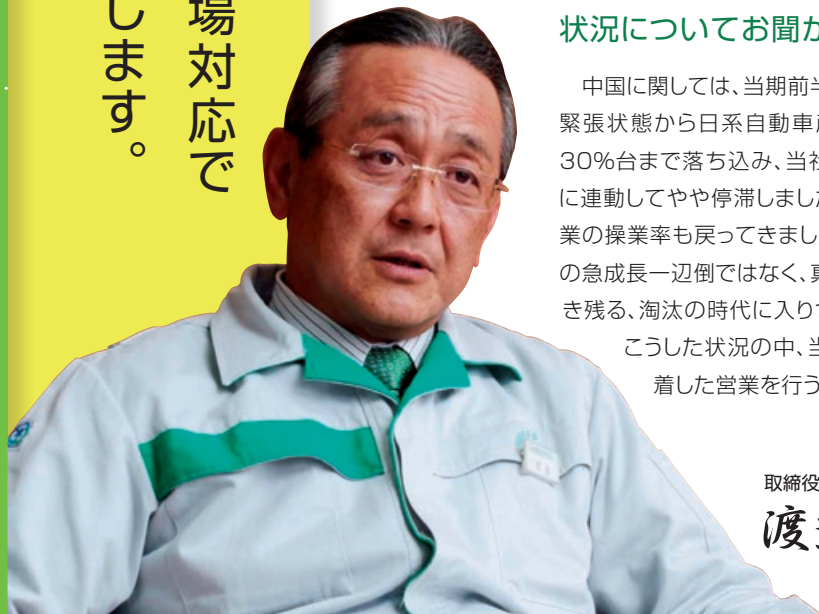
報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

兼房株式会社

証券コード 5984

スピーディな意思決定と市場対応で
更なるグローバル化を推進します。



取締役社長
渡邊 将人

当期(2013年3月期)の業績について お聞かせください。

年末の政権交代後、景気対策への期待感から急激に円安に向かいました。この為替変動により、海外市場での価格競争力は相対的に戻りつつありますが、当期全般には欧州経済危機を発端とする世界的な景気の低迷、歴史的円高の長期化など極めて厳しい経営環境が続きました。全体を見渡しても、好材料は、政府の住宅購入支援があった国内住宅関連市場と、景気回復の気配が見られた米国の自動車関連市場くらいでしょうか。各国の経済情勢がそのまま当社の業績にも反映された形で、2013年3月期の連結ベースでの売上高は15,197百万円(前期比2.6%増)、営業利益は897百万円(同1.3%減)となりました。期末にかけて為替が急激に円安になったため、経常利益は1,101百万円(同8.7%増)、当期純利益は714百万円(同45.5%増)となりました。

各国・各エリアそれぞれの 状況についてお聞かせください。

中国に関しては、当期前半の領土問題に起因する緊張状態から日系自動車産業の操業率が一時約30%台まで落ち込み、当社の業績もそうした状況に連動してやや停滞しました。期の後半には日系企業の操業率も戻ってきましたが、中国市場はかつての急成長一辺倒ではなく、真に実力のある企業が生き残る、淘汰の時代に入りつつあると感じています。こうした状況の中、当社はより一層現地に密着した営業を行うべく、新たな営業拠点づ

くりを推進しました。中国という巨大市場で成長軌道を確保できるよう、営業力強化を図ってまいります。

インドネシアについては、大規模な洪水に見舞われたタイの製造代替拠点として日系企業の進出が続き、活況を呈しました。その一方で、欧州の競合企業が自国の景気低迷を受けて東南アジアに進出してきており、競争は激化しつつあります。当社はこのような状況を見据え、一貫製造ラインを立ち上げました。当期は投資先行となりましたが、設備が整った今、市場競争力を高め、カネフサブランドの浸透拡大に努めてまいります。

欧州は、経済危機の影響が全域に広がり、ごく一部を除いて、市場の低迷が続いた1年でした。当社はシェアを落とすことはありませんでしたが、市場自体が低迷しており、当期は厳しい結果となりました。今後は、円安基調に移行しつつあることを踏まえ、比較的好調を維持しているドイツの自動車関連市場を中心に売上増加に努めてまいります。

インド、ブラジルといった新興国市場に関しても、世界経済低迷の影響を受け、実体経済が停滞し、思ったような成果を上げられない状況が続いています。それぞれの国情、環境を見極めながら市場の開拓を進めていきたいと思えます。

唯一回復の兆しが見られるのは米国で、特に自動車関連産業とエネルギー開発(シェールガス)が牽引役となりました。特に自動車関連産業の回復は、当社の売上も好影響を受け始めており、ケンタッキー州にある新設社屋を拠点に、メンテナンス市場や自動車以外の市場への拡販を視野に、より積極的な営業活動を展開してまいります。

中期経営計画最終年度に向けての 課題について教えてください。

少子高齢化が進む国内の市場動向を見ると、当社が進めてきたグローバル戦略に誤りはなく、今後も推し進めていく必要性を強く感じています。「生き残りをかけた挑戦」として掲げたビジョン(「2013年度グループ売上高169億円の実現」と「グローバル生



産分業体制の確立)」については、連結売上高、海外売上高比率、海外生産高比率を目標数値まで高めるべく引き続き努力してまいります。

今一番の課題だと認識しているのは、「市場の変化をいかに早く察知して、機敏に最適の策を打てるか」という点です。市場環境は激しいスピードで変化しています。例えば、円高から円安への急激な為替変動の中で価格対応が遅れれば、競合企業に先を越され市場機会は一気に狭まります。そして一旦失った市場を取り戻すためにはより大きなエネルギーが必要となります。今後のグローバルなビジネス展開においてはスピーディな意思決定や市場対応の重要性が飛躍的に高まります。これまで各エリアで進めてきた顧客課題解決の実績とそのネットワークをベースに、市場の変化に臨機応変に対応できる体制を整備しつつ、カネフサらしさを活かしたグローバル化を進めてまいります。

最後になりましたが、株主の皆様への メッセージをお願いします。

外部環境の変化が激しい1年でしたが、グローバル化の推進という基本的な経営方針は変わりません。株主の皆様への期待にお応えできるよう、努力を重ねていく所存です。引き続きご支援のほど、よろしく願い申し上げます。

① 株主の皆様へ

③ 中期経営計画の状況

⑤ 製品紹介

⑦ TOPICS

⑨ 営業の概況

⑪ 連結財務諸表

- ▶ 連結貸借対照表
- ▶ 連結損益計算書
- ▶ 連結キャッシュ・フロー計算書
- ▶ 連結株主資本等変動計算書

⑬ 単体財務諸表

- ▶ 貸借対照表
- ▶ 損益計算書
- ▶ 株主資本等変動計算書

⑭ Information

- ▶ 会社概要
- ▶ 役員
- ▶ 株式の状況

免責事項

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えさせていただきますようお願いいたします。

生き残りをかけた挑戦

『生き残りをかけた挑戦』と厳しい表現ではありますが、兼房グループが更なる飛躍を成し遂げるために、グループ社員が一丸となって取り組んでいこうという意味を表すとともに、刃物のトップメーカーとして兼房グループの意気込みを表現した言葉です。持てる経営資源を最大限に活かし、世界が認める『真のグローバル企業』となるため、中期ビジョン・経営目標を達成していきます。

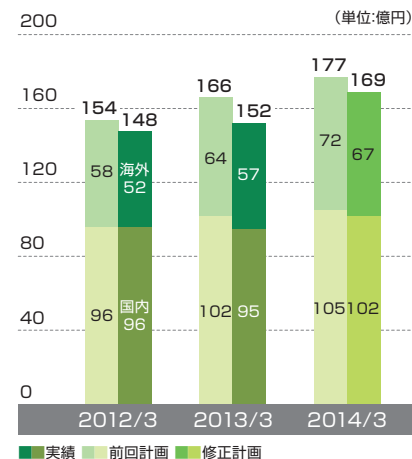
1 中期ビジョン
兼房グループ2013年度
売上高 **169** 億円の**実現**

2 中期ビジョン
グローバル生産
分業体制の**確立**

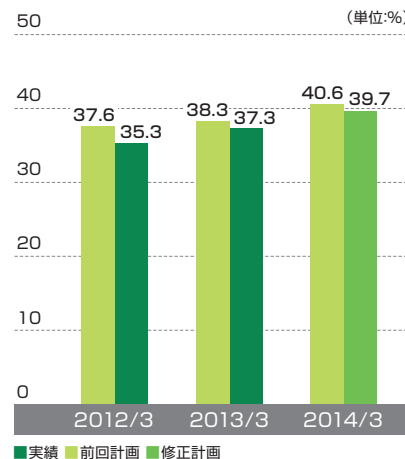


経営目標

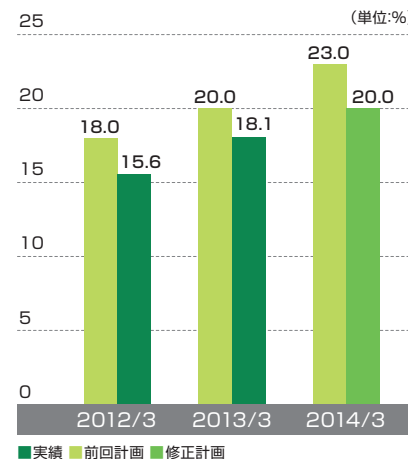
●売上高



●海外売上高比率



●海外生産高比率



中期経営計画の数値目標

中期経営計画に基づき、事業部と営業部の協業体制のもと、戦略的なマーケティングを継続的に実施して、グローバル市場での販売拡大を図っていきます。

(単位:百万円)

| | 2012/3 | | 2013/3 | | 2014/3 | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 計画 | 実績 | 前回計画 | 実績 | 前回計画 | 修正計画 |
| 売上高 | 15,410 | 14,809 | 16,560 | 15,197 | 17,700 | 16,940 |
| 国内 | 9,610 | 9,581 | 10,210 | 9,521 | 10,510 | 10,210 |
| 海外 | | | | | | |
| アジア | 2,970 | 2,907 | 3,480 | 3,146 | 3,900 | 3,500 |
| アメリカ | 1,010 | 860 | 1,040 | 1,039 | 1,195 | 1,290 |
| ヨーロッパ | 1,620 | 1,268 | 1,640 | 1,335 | 1,880 | 1,730 |
| その他 | 200 | 192 | 190 | 154 | 215 | 210 |
| 営業利益 | 1,360 | 909 | 1,670 | 897 | 1,890 | 1,450 |
| 経常利益 | 1,360 | 1,013 | 1,680 | 1,101 | 1,910 | 1,440 |
| 当期純利益 | 830 | 490 | 1,030 | 714 | 1,210 | 920 |

事業別売上高計画

顧客ニーズに合致した高QCDモノづくりの実現とコスト競争力強化のため、本社工場と海外生産拠点との最適分業体制を確立し計画を推進していきます。

(単位:百万円)

| | 2012/3 | | 2013/3 | | 2014/3 | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 計画 | 実績 | 前回計画 | 実績 | 前回計画 | 修正計画 |
| 平刃事業 | 5,220 | 5,027 | 5,450 | 5,063 | 5,700 | 5,510 |
| カッター事業 | 3,600 | 3,482 | 3,840 | 3,643 | 3,970 | 3,880 |
| 丸鋸事業 | 6,350 | 6,104 | 7,090 | 6,288 | 7,820 | 7,350 |
| 商品等 | 240 | 195 | 180 | 201 | 210 | 200 |
| 合計 | 15,410 | 14,809 | 16,560 | 15,197 | 17,700 | 16,940 |

こんな身近な場面で、みなさまの生活を支えています。〔住宅編〕

日常生活の中で、カネフサの製品に直接触れることは少ないかもしれませんが、例えば住まいの柱や家具などの切断、加工にカネフサの技術が活かされています。カネフサの製品はさまざまなシーンでみなさまの暮らしをサポートしています。

外壁材のカットに

ダイヤモンドチップソー

住宅の外壁材など窯業系材料の切断に使われます。独自の刃型により高い加工品質を実現しています。

アルミサッシのカットに

サッシプロチップソー

アルミサッシ(窓枠)の切断に使われ、特殊なスリットにより、切削騒音の低減を可能にしています。

家具部材のつなぎ合わせに

フィンガーカッター

木材同士をつなぎ合わせる加工(フィンガージョイント加工)に使われます。刃先に特殊なコーティングを施すことにより、樹脂(ヤニ)の付着を防止します。

外壁

柱

システムキッチン

家具

フローリング

柱のつなぎ目加工に

エース仕口カッター

柱や梁(はり)を接合する加工(カマ継ぎやアリ掛け加工)に使われ、抜群の切れ味により、精巧な仕上がり面が可能になります。

化粧板の面削り加工に

ミーリングカッター

化粧板の面削り加工に使われ、鋭利な切れ味により、むしれの発生を防止します。

フローリング材のつなぎ合わせに

フローリングカッター (ピーリングカッター)

床板・壁板材のつなぎ合わせ加工に使われます。長時間はめ合い精度の高い加工が実現できます。

TOPICS



グローバル展開の進捗

米国現地法人(カネフサUSA,INC.) 新社屋建設

カネフサUSA,INC.は、これまでケンタッキー州アーランガーの賃貸物件に入居していましたが、2012年6月、同地区に新社屋を建設し、移転しました。

移転先は全米で最も利用度の高い高速道路沿いであり、顧客へのアクセスに絶好の立地と言えます。また、18,170m²の敷地には事務所のほか、再研磨工場も拡充設置し、顧客ニーズに適時対応できる再研磨サービスの提供が可能となりました。この地の利とサービスの両輪により、地域に根付いた事業活動を行い、お客様との紐帯強化を図ってまいります。



国内拠点の移転

高松営業所設置

四国エリアの営業拠点である徳島出張所を、2012年10月、香川県高松市に移転し、営業所に昇格させました。

移転先の高松市は、四国の玄関口として経済・交通の中心地であり、またJR高松駅・高松中央ICの双方と近い立地に営業所を設けたことにより、営業活動の効率性が格段に向上しました。このアクセスのよさを活かし、四国4県の既存顧客への営業活動を一層充実させ、また新規顧客開拓に努めてまいります。



IMTS (米国・シカゴ)
2012年9月10日~15日



世界最大級の国際工作機械展IMTS 2012 (The International Manufacturing Technology Show) が米国イリノイ州シカゴで開催され、当社も出展しゴールドソーを中心とした金属切断用丸鋸を展示しました。来場者数は約100,200名と、アメリカ経済の回復傾向を反映し、前回よりも増加しました。当社のブースには、米国だけでなくカナダ、メキシコ、韓国、インドなど世界各国のお客様が多数来訪され、難削材切断や非鉄切断に関するご相談をお受けしました。今後もこのような展示会を通して、カネフサブランドを世界にアピールしていきます。



JIMTOF (日本・東京)
2012年11月1日~6日

JIMTOF 2012 (第26回日本国際工作機械見本市) が東京ビッグサイトで開催され、当社も出展しました。同見本市は、世界最新鋭の工作機械とその関連製品が、いち早く出展される見本市として、高く評価されています。歴史的な円高や日中関係の緊迫化等、大変厳しい環境下にありましたが、出展者数は前回とほぼ同じ815社、来場者数は前年比12%増の約128,000名となりました。当社の出展は今回で6回目となり、金属加工用工具や樹脂加工用工具、精密加工用工具などを展示しました。国際的に評価が高い同展示会に出展することにより、当社製品の認知度向上が図れました。



概況

当連結会計年度における世界経済は、米国では自動車販売等、個人消費の増加や住宅市場の回復を中心に緩やかに景気は持ち直しつつあるものの、欧州は債務問題の長期化によって依然として先行きは不透明な状況が続き、その影響が中国等新興諸国に波及したことなどにより、総じて厳しい状況が続きました。

一方、わが国経済は、復興関連需要やエコカー補助金などによる回復効果が一部に見られたものの、歴史的円高の長期化や海外景気の下振れなどの影響を受け、全体的には弱含みに推移しました。

このような状況の下、当社グループは、海外生産の増強、グローバル市場での販売拡大、国内住宅関連市場の占有率拡大や非住宅関連市場の開拓などを目指

し、戦略的な製品開発、生産、営業活動を展開いたしました。

売上高

国内における売上は、被災住宅の再建や住宅エコポイントなどを背景に新設住宅着工戸数は持ち直しの動きが見られ、住宅関連刃物は堅調に推移しましたが、非住宅関連刃物が低調に推移し、前年同期を下回る結果となりました。一方、海外での売上は、米国市場での自動車関連刃物や東南アジア市場等で合板関連刃物が好調に推移し、当連結会計年度における売上高は151億9千7百万円（前年同期比2.6%増）となりました。

利益

利益面では、円高での海外売上の採算性悪化にともなう日本の原価コストアップ要因などにより、営業利益は8億9千7百万円（前年同期比1.3%減）となりました。しかし、年度末にかけて為替が急激に円安となったことにより為替差益を2億1百万円計上し、経常利益は11億1百万円（前年同期比8.7%増）、当期純利益は7億1千4百万円（前年同期比45.5%増）となりました。

来期の見通し

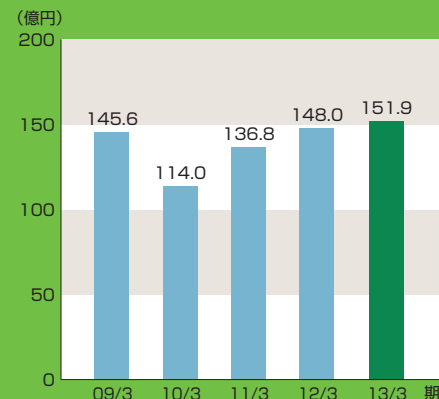
今後の経済見通しにつきましては、世界経済は、米国経済に一部持ち直しの兆しが見られるものの、

欧州や新興国経済は依然として先行き不透明な状況が続いています。一方、わが国経済は、昨年末の政権交代以降、景気回復政策への期待から株式市場上昇や円高修正は進んでいるものの、实体经济回復の動きには繋がっておらず、今年度も予断を許さない状況が続くものと思われま

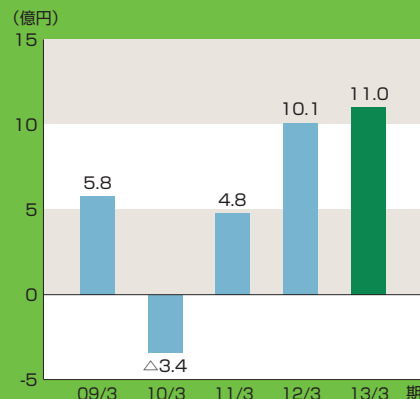
す。このような状況の中で、当社グループはさらなるグローバル展開を積極的に推進し、海外生産・売上の拡大を図るとともに、グループ全体での製造原価低減などによる収益体質の改善を継続的に進めてまいります。

次期の連結業績見通しとして、売上高169億4千万円、営業利益14億5千万円、経常利益14億4千万円、当期純利益9億2千万円を見込んでおります。

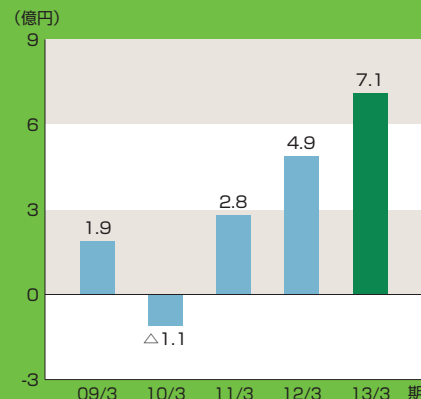
売上高



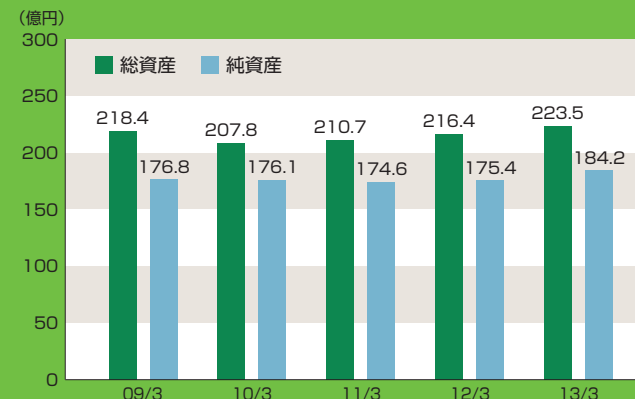
経常利益又は経常損失(△)



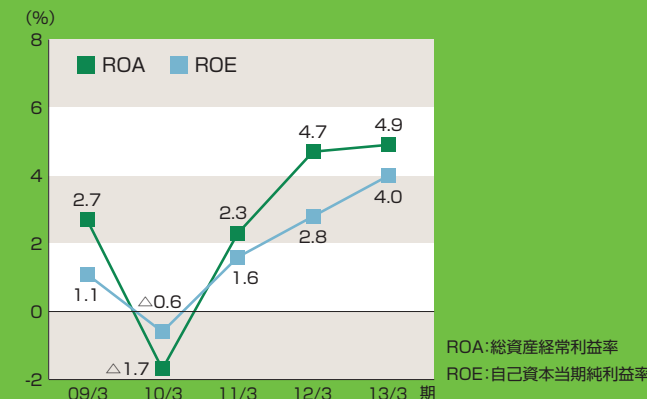
当期純利益又は当期純損失(△)



総資産・純資産



ROA/ROE



ROA:総資産経常利益率
ROE:自己資本当期純利益率

総資産

現金及び預金が3億4千万円、仕掛品が7千1百万円、それぞれ減少したものの、建物及び構築物が5億1千7百万円、機械装置及び運搬具が2億4千7百万円、無形固定資産が2億7百万円、投資その他の資産が1億3千万円、それぞれ増加したことなどにより、前期末と比べ7億1千9百万円増加の223億5千9百万円となりました。

負債

繰延税金負債が1億1百万円増加したものの、支払手形及び買掛金が2億3千8百万円減少したことなどにより、前期末と比べ1億5千6百万円減少の39億3千7百万円となりました。

純資産

利益剰余金が5億5百万円増加し、その他の包括利益累計額が3億7千万円増加したことなどにより、前期末と比べ8億7千6百万円増加の184億2千1百万円となりました。また、自己資本比率は前期末の81.1%から82.4%となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

| 科目 | 期別 | 当期 | 前期 |
|----------------|----|-------------------|-------------------|
| | | 平成25年3月31日現在 | 平成24年3月31日現在 |
| (資産の部) | | | |
| 流動資産 | | 11,937,167 | 12,165,285 |
| 固定資産 | | 10,422,524 | 9,475,094 |
| 資産合計 | | 22,359,691 | 21,640,380 |
| (負債の部) | | | |
| 流動負債 | | 3,191,643 | 3,378,187 |
| 固定負債 | | 746,186 | 716,457 |
| 負債合計 | | 3,937,830 | 4,094,645 |
| (純資産の部) | | | |
| 株主資本 | | 18,479,300 | 17,973,900 |
| その他の包括利益累計額 | | △57,439 | △428,164 |
| 純資産合計 | | 18,421,861 | 17,545,735 |
| 負債純資産合計 | | 22,359,691 | 21,640,380 |

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

| 科目 | 期別 | 当期 | 前期 |
|----------------|----|-------------------------|-------------------------|
| | | 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで | 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで |
| 売上高 | | 15,197,261 | 14,809,967 |
| 売上原価 | | 10,227,395 | 9,906,431 |
| 売上総利益 | | 4,969,865 | 4,903,535 |
| 販売費及び一般管理費 | | 4,072,549 | 3,994,512 |
| 営業利益 | | 897,315 | 909,023 |
| 営業外収益 | | 264,451 | 142,013 |
| 営業外費用 | | 60,116 | 37,443 |
| 経常利益 | | 1,101,650 | 1,013,592 |
| 特別利益 | | 516 | 2,363 |
| 特別損失 | | 54,789 | 49,324 |
| 税金等調整前当期純利益 | | 1,047,377 | 966,632 |
| 法人税等 | | 333,355 | 476,055 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | | 714,021 | 490,577 |
| 当期純利益 | | 714,021 | 490,577 |

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

| 科目 | 期別 | 当期 | 前期 |
|----------------------|----|-------------------------|-------------------------|
| | | 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで | 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 1,591,821 | 1,578,051 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △2,006,830 | △1,199,669 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △208,621 | △208,511 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | 110,894 | △32,188 |
| 現金及び現金同等物の増減額(減少:△) | | △512,736 | 137,682 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 3,328,698 | 3,168,711 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | | — | 22,304 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | | 2,815,961 | 3,328,698 |

連結株主資本等変動計算書(要旨)

当期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

単位:千円

| | 株主資本 | | | | | その他の包括利益累計額 | | | 純資産合計 |
|----------------------------|-----------|-----------|------------|----------|------------|--------------|----------|---------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 為替換算調整勘定 | その他の包括利益累計額合計 | |
| 当期首残高 | 2,142,500 | 2,167,890 | 13,871,930 | △208,420 | 17,973,900 | 195,931 | △624,096 | △428,164 | 17,545,735 |
| 当連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △208,510 | | △208,510 | | | | △208,510 |
| 当期純利益 | | | 714,021 | | 714,021 | | | | 714,021 |
| 自己株式の取得 | | | | △110 | △110 | | | | △110 |
| 株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額) | | | | | | 101,811 | 268,913 | 370,725 | 370,725 |
| 当連結会計年度中の変動額合計 | — | — | 505,511 | △110 | 505,400 | 101,811 | 268,913 | 370,725 | 876,126 |
| 当期末残高 | 2,142,500 | 2,167,890 | 14,377,441 | △208,531 | 18,479,300 | 297,743 | △355,182 | △57,439 | 18,421,861 |

貸借対照表(要旨)

単位:千円

| 科目 | 期別 | |
|----------------|--------------------|--------------------|
| | 当期 平成25年3月31日現在 | 前期 平成24年3月31日現在 |
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 9,673,429 | 10,233,347 |
| 固定資産 | 11,686,099 | 10,934,510 |
| 資産合計 | 21,359,528 | 21,167,858 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 3,106,347 | 3,292,585 |
| 固定負債 | 618,392 | 645,422 |
| 負債合計 | 3,724,739 | 3,938,008 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 17,337,045 | 17,033,918 |
| 評価・換算差額等 | 297,743 | 195,931 |
| 純資産合計 | 17,634,788 | 17,229,849 |
| 負債純資産合計 | 21,359,528 | 21,167,858 |

損益計算書(要旨)

単位:千円

| 科目 | 期別 | |
|------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| | 当期 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで | 前期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで |
| 売上高 | 13,161,271 | 13,720,658 |
| 売上原価 | 9,344,040 | 9,594,975 |
| 売上総利益 | 3,817,231 | 4,125,683 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,318,292 | 3,312,381 |
| 営業利益 | 498,938 | 813,302 |
| 営業外収益 | 390,688 | 69,007 |
| 営業外費用 | 53,380 | 49,788 |
| 経常利益 | 836,246 | 832,521 |
| 特別利益 | 3,073 | 3,795 |
| 特別損失 | 53,746 | 49,733 |
| 税引前当期純利益 | 785,573 | 786,583 |
| 法人税等 | 273,824 | 400,574 |
| 当期純利益 | 511,748 | 386,009 |

株主資本等変動計算書(要旨)

当期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

単位:千円

| | 株主資本 | | | | | 評価・換算 差額等 | 純資産 合計 |
|------------------------------|-----------|-----------|------------|----------|------------|--------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | | |
| 当期首残高 | 2,142,500 | 2,167,890 | 12,931,948 | △208,420 | 17,033,918 | 195,931 | 17,229,849 |
| 当事業年度中の変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △208,510 | | △208,510 | | △208,510 |
| 当期純利益 | | | 511,748 | | 511,748 | | 511,748 |
| 自己株式の取得 | | | | △110 | △110 | | △110 |
| 株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額(純額) | | | | | | 101,811 | 101,811 |
| 当事業年度中の変動額合計 | - | - | 303,237 | △110 | 303,126 | 101,811 | 404,938 |
| 当期末残高 | 2,142,500 | 2,167,890 | 13,235,186 | △208,531 | 17,337,045 | 297,743 | 17,634,788 |

Information

会社概要

(平成25年3月31日現在)

| | |
|---------|---|
| 商号 | 兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION |
| 設立 | 昭和23年11月25日 |
| 資本金 | 21億4,250万円 |
| 本社所在地 | 愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地 |
| 従業員数 | 562名 |
| 主要な事業内容 | 工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資及び技術供与。 |
| 主要な事業所 | 本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 仙台 広島 高松 福岡 海外駐在員事務所 マレーシア |
| 子会社 | PT.カネフサインドネシア カネフサUSA,INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 カネフサインディア Pvt.Ltd. カネフサ ドブラジル LTDA. 大口サービス株式会社 |

役員

(平成25年6月26日現在)

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 取締役社長 | 渡邊 将人 | 取締役 | 春日 晃 |
| 専務取締役 | 太田 正志 | 取締役 | 萬谷 哲朗 |
| 常務取締役 | 平子 哲朗 | 取締役 | 石田 信之 |
| 常務取締役 | 西尾 悟 | 取締役 | 山川 寿康 |
| 常務取締役 | 藤吉 芳久 | 常勤監査役 | 森 隆生 |
| 常務取締役 | 鈴木 仁 | 監査役 | 辻中 修 |
| | | 監査役 | 鮎澤 多俊 |

株式の状況

(平成25年3月31日現在)

| | |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 39,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 14,310,000株 |
| 株主数 | 2,045名 |

大株主(上位10名)

| 株主名 | 持株数 (千株) | 持株比率 (%) |
|----------------------|-------------|-------------|
| 大口興産株式会社 | 2,299 | 16.5 |
| 渡邊 裕子 | 1,220 | 8.7 |
| 太田 万佐子 | 1,181 | 8.4 |
| 兼房従業員持株会 | 891 | 6.4 |
| 渡邊 美奈子 | 765 | 5.5 |
| 渡邊 浩 | 743 | 5.3 |
| 渡邊 将人 | 426 | 3.0 |
| 太田 正志 | 399 | 2.8 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 324 | 2.3 |
| 株式会社りそな銀行 | 200 | 1.4 |

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況

